

目的 水玉柄は、いつの時代にも用いられている代表的な被服柄の1つであるが、水玉柄がどのようなイメージで捉えられているのかが明らかにされていない。そこで衣服に用いられている白と黒の構成による無彩色の基本的な水玉柄に対するイメージについて、形容詞対を用いて、SD法による5段階評価を行ない、因子分析法により解析した。

方法 1. 試料 水玉の大きさを、0.25cm, 0.5cm, 1cm, 2cm, 3cm, 4cm, 5cm, 6cmの8種につき、図と地の面積比を変えたものを各3種（直径0.5cmの水玉は4種）作成し、これらの組み合わせに対し、図と地の反転を加え、計50種の試料を作成した。試料の大きさは、32cm X 45cm（セーターMサイズの8割寸法）とし、日本色研の特注色紙を用いた。

2. イメージテスト SD法に用いる形容詞対は、上記水玉柄に対するイメージ用語に関する予備実験をもとに、20対の形容詞を選択した。被験者には、山梨県在住の18才～20才までの女子学生78名を用いてイメージテストを行った。

結果 1. 白と黒の構成による無彩色の水玉柄のイメージは、はっきりの因子、すっきりの因子、落ちつきの因子（累積寄与率88.2%）の3因子であらわされる。

2. 各試料の因子得点から、水玉柄におけるはっきりの因子（因子寄与率54.8%）は、水玉の大きさが関係し、すっきりの因子（因子寄与率22.0%）は、水玉の間隔が関係し、落ちつきの因子（因子寄与率11.4%）は、地の色彩が関係していることが解った。